

1. 評価結果概要表

平成20年 9月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	2070200924
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム なごみ
所在地	松本市寿北5-34-23 (電話) 0236-85-5171

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年9月10日	評価確定日	平成20年9月16日

【情報提供票より】(20年 7月 30日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日	平成18年7月20日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 9人
職員数	15人	常勤15人 非常勤0人 常勤換算13.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000円	その他の経費(月額)	12,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (100000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,170円

(4) 利用者の概要 (7月 30日 現在)

利用者人数	18名	男性 1名	女性 17名
要介護1		要介護2	8名
要介護3	5名	要介護4	5名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 86.1歳	最低 76歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桔梗ヶ原病院・鴨居歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの共有空間である居間の大きな窓からは、松本平をほぼ一望でき、目線をたどると常念岳、その麓の街並みと田畑の彩りが趣を感じさせてくれる。入居者の表情は大変穏やかで、広々とした明るい居間でゆっくりとしたペースで過ごされている。母体組織である平成会は、グループホームを始め、ケアハウス、デイサービス他各種介護・福祉施設を運営し、地域で必要とされる法人を目指している。「食」の大切さは法人の理念にも掲げられ、季節の食材を京料理のように美しく盛り付け、入居者の楽しみに繋がっている。また、認知症の進行に伴うニーズの変化には柔軟に対応できる介護力を持ち、終末期や重症化への対応も、往診、訪問看護を導入するなど、協力医療機関との連携のもと前向きに取り組まれ家族からの信頼も厚い。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題であった地域との交流については、草刈などの地域活動へ参加したり、インフルエンザで中止となったが小学生の訪問も計画され、前向きに取り組みがされている。市町村との連携は、その必要性を十分認識されているため、今後更なる取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が自己評価に取り組んでいる。職員は、自己評価を行なうことで、日頃のケアを見直し、更なる質の向上を目指している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は幅広い立場の人が参加し、事業所からの報告のほか、質問、意見が交わされている。今後さらに会議の意義をより明確にするため、市の担当者に参加協力を依頼し、地域との連携や課題解決につなげるような取り組みを期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見・苦情の受け入れ先は、利用開始時に説明されるほか、玄関には意見箱を設置している。毎月家族宛に、担当スタッフが写真入り便りを送付しホームでの暮らしを報告している。家族会や法人による家族向けアンケートを通して、意見・要望を表せる機会をつくり、出された意見は職員間で検討し改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 施設周辺の散歩を通じて地域の方とのふれあいを大切にしているが、周辺が新しい住宅地であり、地元の人々との交流の機会は十分とはいえない。管理者は、思考錯誤しながら、近隣住民との理解を得るための取り組みを模索している。日頃の交流が災害時の協力にも繋がることから、今後更なる取り組みを期待したい。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が目指すサービスのあり方を示した、法人としての理念が作り上げられている。「笑顔・言葉・食・住まい」を基本理念とし、入居者と共にあゆみ、安心して暮らし続けることを目指した内容となっている。		これまでの理念に加えて、地域密着型サービスとしての役割を目指したホーム独自の理念を、職員全員で作りに上げられることを望みます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関には、来訪者にわかるように事業所の理念が掲示されている。ミーティングなどで職員間で周知徹底することにより、日々のサービスの提供場面の中に理念を活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敷地内にあるケアハウスとの合同コンサートを実施する際は、地域住民への参加を呼びかけている。地域に対する事業所の役割を理解し、地域との接点を持てるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より自己評価の目的や意義が説明され、職員全員で自己評価に取り組んだ。外部評価の結果は、ミーティングで報告され、改善に向けての努力がされている。		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者、家族代表、地域町会代表、民生委員、包括支援センター等の参加により、定期的で開催されている。参加者より質問、意見、要望を聞き、サービスの質の向上に取り組まれている。</p>		<p>運営推進会議では、参加者が会議の意義や役割を十分理解することが大切です。市職員にも積極的に参加を呼びかけ、より一層地域の理解と支援をえらることを期待します。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護相談員の派遣を受け、協働して課題解決に取り組んでいる。</p>		<p>市民福祉を推進する地方自治の最前線の立場である市町村は、事業の推進において重要な存在です。介護予防教室の受諾や市職員の研修場所として事業所を活用してもらうなど、市職員とホーム職員や入居者との交流も協働関係を継続する上では有意義と思われる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当スタッフより家族便りを発行し、行事の様子や日頃の暮らしぶりを、写真を添えて知らせている。金銭管理も定期的な報告が行なわれている。また心身の状況について何らかの変化があれば、その都度きめ細かく連絡をしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱が玄関に設置されているとともに、面会時には家族が職員に意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。いただいた意見・要望は、ミーティングで話し合い反映させている。家族会を設けたり、法人全体のアンケートを行なうなど、安心して意見等を表せる機会作りに努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者や家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの関係が重要と考えている。離職がやむを得ない場合にも、引継ぎの場面では最善の努力をし、新しい職員が入る場合も入居者や家族への紹介は必ず行なっている。</p>		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内外の研修に参加し、研修後は全職員に内容の周知が図られている。職場で共に考え、助言する人材を確保することで、職員が日々の体験を学びにつなげる機会が得られている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会等に参加したり、法人内のグループホームの交流によりサービスの質の向上を図っている。</p>		<p>法人内外のグループホームへの見学や交流を通して、事業所外の同業者の意見や経験を共有することが、地域全体のサービス水準の向上に繋がると思われます。更なる同業者同士の協働を期待します。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、家とホームを行き来しながら、安心感を持って入居できるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者が生きてきた環境を理解した上で、支援する側とされる側にとらわれない関わりが日々の生活場面で見られている。職員は、認知症の有無にとらわれず利用者と喜怒哀楽を共にし、一緒に過ごし支えあう場を日常の中で作っていくことに留意している。</p>		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの希望や意見を把握するため、言葉や表情から真意を推し測ると共に、カンファレンスやミーティングで本人の視点に立って話し合う取り組みがされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族には、日頃の関わりや面会時に意見や意向を聞き、相談しながら計画に反映させている。一人ひとりその時点にそった計画となるよう、カンファレンスやミーティングで職員全員で検討している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定した期間での定期的な介護計画の見直しのほかに、本人・家族の要望や状態に変化が生じた場合には実情に応じたケアに繋がるように介護計画の見直しを行なっている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の都合により通院介助ができない場合、家族に代わり通院介助や外出の支援を行なっている。家族の宿泊の支援も柔軟に対応している。</p>		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族と本人には契約時に、協力医療機関がかかりつけ医となることを説明し、同意を得ている。希望があれば、今までのかかりつけ医での受診もできるよう支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期については、本人の思いや家族の希望に配慮し、話し合いの機会を作り、方針の統一を図っている。医師による往診や訪問介護、看護職員等により医療的処置の対応も可能な限り支援し、本人と家族の安心に繋がっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全職員が入居者の尊厳について理解し、接遇マナーを重視してケアにあたっている様子が見え、言葉の重要性は事業所の理念にも掲げられ、日常的な関わりや管理者との面談を通して、確認しながら取り組んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調に配慮し、その日その時の本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行なっている。</p>		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理や盛り付けは、入居者の力を活かしながら職員と一緒にこなしている。各々のお膳には、色とりどりの清水焼の小鉢が並べられ、見た目も美しく、「食」を大切に作る姿勢が感じられる。食事の美味しさは、入居者にとっては最大の楽しみの一つであり、ご家族の安心と満足に繋がっている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴したい日、希望する時間に合わせ対応している。本人の希望に応じ、夜間の入浴も実施している。入浴を拒んでいた入居者が、職員の対応により入浴を楽しめるようになったケースもある。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の状態や力量に合わせ、食事作りや盛り付け、菜園や花壇作り、習字などの趣味や役割を通して、日々の生活が張り合いのあるものになるよう支援している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>気分転換や五感刺激の機会として、短時間でも戸外に出る機会を作っている。ホーム周辺は自然に囲まれた静かな住宅地であり、車椅子なども利用し戸外で気持ちよく過ごせるよう、外出支援が行なわれている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員の配置や建物の構造上、施錠を行なっている場所もある。職員全員は、鍵をかけない暮らしの大切さを認識し、入居者が外出しそうな場面では、さりげなく声かけをするなど安全面に配慮している。</p>		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>敷地内にあるケアハウスと協力体制を築いており、年2回の防災訓練が実施されている。</p>		<p>職員だけの誘導の限界を具体的に認識することが大切です。日頃より地域住民や消防団との連携を図り、夜間想定も含めた事業所の災害対策に関する理解を求め、協力体制を築いていくことが望まれます。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>普段から入居者の食べ物の好みを把握し、好みのものや馴染みのものを取り入れながら、栄養摂取ができるよう取り組んでいる。栄養や水分量がどの程度取れているか、およその量を意識しながら関わり、摂取状況は記録されている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が多くの時間を過ごす共有空間の大きな窓からは、四季折々の自然が見渡せ、廊下やフロアには季節の活け花や観葉植物が置かれている。椅子やソファは一人ひとりがゆったりと過ごせるよう配置され、居心地のよい空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、入居者が馴染み使用されていた生活用品が置かれ、それぞれの生活スタイルに合わせた思い思いの居室となっている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。